



4 社会との協調

環境広報①の推進や環境NGO①との連携などによる環境事業、途上国等への技術協力などによる国際的な環境活動の展開など、環境活動を通して社会との協調を図っています。

1 コミュニケーション

環境アクションレポート、講演会、見学会、マスメディア等を通じて、環境情報を積極的に公開するとともに、幅広い広聴活動により、皆さまとのコミュニケーションを推進しています。

講演会

一般のお客さまを対象に、環境・エネルギー関連の講演会等を実施しています。

- 環境月間①(6月)では、3事業所で一般のお客さまを対象とした講演会を実施し、あわせて497人の参加をいただきました。

- 俳優の柳生博氏(財)日本野鳥の会会長をお招きし、「森と暮らす、森に学ぶ」をテーマとした講演会を開催し、約400人の方に参加をいただきました。



柳生博氏による講演会

- 環境・エネルギー問題に関する小中学校の授業や自治体等主催の講演会などに27回講師を派遣し、約2,100人の参加者の方にお話をさせていただきました。



エネルギー講座(大分支店)

見学会

環境問題への取り組みや地球温暖化①防止に有効な原子力発電の開発・利用をご理解いただくため、発電所施設、玄海エネルギーパーク等での見学会を実施しています。

- 2004年度は、玄海・川内原子力発電所等での見学会に、あわせて約11万人の皆さまの参加をいただきました。

展示施設の詳細は

P75 参照

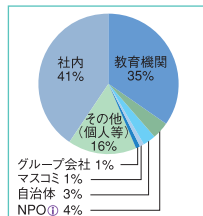
環境アクションレポート

1996年度から環境活動への取り組み状況を環境アクションレポートとして取りまとめて公表し、九州管内の自治体や教育機関などに積極的に配付しています。

- 2003年度より、事業所周辺地域の皆さまとのコミュニケーションを目的としたサイトレポートを発行しています。

- また、九州電力ホームページの環境アクションレポートには、2004年度に約14万件のアクセスをいただきました。

■2004環境アクションレポートの配付先割合



2004 本レポート 2004 ダイジェスト版 2004 サイトレポート

■環境アクションレポートの発行実績(冊)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
本レポート	17,000	8,000	8,000	8,000
ダイジェスト版	22,000	24,000	24,000	24,000
英語版	1,000	1,000	500	400
サイトレポート	—	1,300 (松浦発電所)	1,300 (川内原子力発電所)	1,000 (小丸川発電所建設所)

※：発行予定部数

エコ・マザー活動

ご家庭における環境教育①の担い手であるお母さま方との環境コミュニケーションを図るため、お子さまや保護者の皆さまが集まる場を訪問し、環境問題への「気づき」となる環境情報をお伝えするとともに、九州電力の環境活動に対するご意見・ご要望をお伺いするエコ・マザー①活動を展開しています。エコ・マザー活動には地域の皆さまの関心も高く、テレビ・ラジオや新聞でも取り上げられました。

エコ・マザー活動の詳細については、CD12

■エコ・マザー活動実績

年度	2003	2004
実施回数(回)	61	141
参加者数(人)	2,840	7,097
アンケート回収率(%)	32.2	32.2



環境紙芝居の読み聞かせ

アンケートの詳細は

P66 参照

テレビコマーシャル

2005年3月より「環境活動への取り組み」をテーマとした企業イメージCMを放映しています。九州各地で地域の皆さまと一緒に植樹する「九州ふるさとの森づくり」にスポットを当て制作しました。このCMは、身の回りにある自然を将来にわたって残していきたいという皆さまの思いを、九州電力も一緒になって叶えていきたいとの意味を込めています。



コマーシャルの一場面

用語説明

詳細については用語集を参照ください。

環境NGO

環境保全のために取り組む、政府機関でない非営利の民間組織・団体。

環境月間

環境省が主催して、6月を環境月間と定めており、環境保全に関する国民の認識と行動を促すため様々な行事が行われている。

NPO法人

医療・福祉、環境、文化・芸術、スポーツ、街づくり、国際協力・交流、人権・平和、教育、助成などの、あらゆる分野における営利を目的としない民間の組織のこと。

環境教育

人間環境について、その望ましい姿を明らかにし、持続・改善することを目的とした教育。

エコ・マザー

環境エネルギー問題等に関して、お客さまと九州電力を結ぶコミュニケーター(パイプ役)のこと。

- ・環境広報
- ・地球温暖化

VOICE

No.7 環境問題をここから考えてみませんか?

近くには波戸岬や呼子といった観光地も多く、ついでに足を運ばれる方から、専門家や見学会の団体まで、お客さまのニーズや滞在時間が様々です。

こういった中で私が一番心掛けているのが、お客さまとのコミュニケーション。原子力発電所に対して、難しい・危険といったイメージを持たれている方も多いので、リラックスして聞いて頂こうと雰囲気作りを努めています。これからお客さまとの出会いを大切に、感動を与えられる施設であり続けたいと思います。

ともあれ、まだまだ原子力発電を疎遠に感じている方も多いため、まずはお気軽にお越し下さい。ご来館お待ちしております。

げんかい

玄海エネルギーパークでは、現在30人を越えるスタッフで、原子力発電のしくみや安全性についてご案内をしています。

近くには波戸岬や呼子といった観光地も多く、ついでに足を運ばれる方から、専門家や見学会の団体まで、お客さまのニーズや滞在時間が様々です。

こういった中で私が一番心掛けているのが、お客さまとのコミュニケーション。原子力発電所に対して、難しい・危険といったイメージを持たれている方も多いので、リラックスして聞いて頂こうと雰囲気作りを努めています。これからお客さまとの出会いを大切に、感動を与えられる施設であり続けたいと思います。

ともあれ、まだまだ原子力発電を疎遠に感じている方も多いため、まずはお気軽にお越し下さい。ご来館お待ちしております。



玄海エネルギーパークスタッフ
と き わ と も み
常盤 智美

「環境報告書審査基準案」を参考として審査した重要な環境情報

記載内容に関する詳細な情報を「巻末CD-ROM」で紹介しているもの

用語集で解説している環境用語

用語説明

詳細については用語集を参照ください。

環境教育

人間環境について、その望ましい姿を明らかにし、持続・改善することを目的とした教育。

グリーンヘルパー

「緑のまちづくり」を推進する地域活動のリーダー育成を目的として「緑のまちづくり交流協会(NPO法人)」が行う育成研修を受講・修了した人に与えられる称号。

NPO法人

医療・福祉、環境、文化・芸術、スポーツ、街づくり、国際協力・交流、人権・平和、教育、助成などの、あらゆる分野における営利を目的としない民間の組織のこと。

- ・カーシェアリング
- ・環境月間
- ・地球環境問題

2 地域における活動への取り組み

「九州ふるさと森づくり」、「環境教育①支援」、「カーシェアリング①事業への協力」など地域と一体となった環境活動を展開するとともに、「環境月間①」を中心に地域で行われる諸活動への参加・支援を行っています。

「九州ふるさと森づくり」による100万本植樹

創立50周年を記念して、2001年度から10年間(10万本/年間)で100万本の植樹を地域の皆さまと一緒にやって行く「九州ふるさと森づくり」を九州の各地で展開しています。2004年度は、55か所で約11万本を植樹し、これまでの4年間で約44万本を植樹しました。

- 森林が持つ国土保全機能(水源かん養、土砂の流出防止)や野生動植物の種の保護空間、自然体験の場としての活用などの多面的な機能も踏まえ、その土地本来の樹種による「ふるさとの木によるふるさと森づくり」に取り組んでいます。
- また、苗木が成長するまでの育林活動として、植樹に参加された皆さまと一緒に苗木のまわりの下草刈り(維持管理活動)も行っています。
- なお、これらの活動にあたっては、緑の育成に関する基礎知識や技能を持ったボランティア活動家「グリーンヘルパー①」の方々にもご協力いただいています。

九州ふるさと森づくりの実施状況については、 CD13

◇グリーンヘルパーの育成支援

1998年度からNPO法人①「緑のまちづくり交流協会」を通して、「グリーンヘルパー」の育成研修への支援を行っています。

- 2004年度は、北九州・宮崎地区で研修を開催(受講者:108人)し、2004年度末までの九州内での受講者総数は658人となりました。
- また、同法人が進める市民運動「100年の森づくり(都市の中に森を再生する運動)」への協力も行っています。



古賀グリーンパーク(福岡県古賀市)での下草刈り(年2回実施)



当社の松尾社長も参加した「田野町水源かん養の森林づくり」

環境教育支援

2002年度から、当社が持つ豊かな自然環境を活用した環境教育支援活動(自然観察、森林教室など)を大分県日田市にある女子畑発電所ダム周辺の「女子畑こいの森」で展開しており、2004年度は、4団体、115人を受け入れ、2004年度末までの受け入れ総数は、19団体、延べ602人となっています。

女子畑発電所ダム周辺での環境教育支援活動については、 CD14

- 女子畑発電所は、大正時代に建設された水力発電所で必要以上の開発が行われず、適切な環境保全が行われてきたため、多くの野鳥、昆虫、植物が存在しています。また、2000年度から2003年度まで、横浜国立大学名誉教授宮脇昭理学博士の指導による自然本来の森の再生を目指した植樹活動を、地域の皆さまと一緒に実践しており、植樹した木々の生育状況を観察することもできます。

- 国民が地球環境問題①の重要性を認識・理解し、日常生活での具体的な行動につなげていく上では、教育機関や地域、企業などの各主体が連携しながら環境教育を展開していくことが極めて重要であり、当社としても、社会を構成する一員として、今後も引き続き市民活動や学校教育における環境教育の支援に努めていきます。



自然観察会

VOICE No. 8 自然の恵み～女子畑より～



自然観察会参加者
やまうち
山内あさみさん

今回の自然観察会に参加するにあたって、私は幼少時代に体験した野山の散策を思い出しつつ、バスに乗り込みました。到着後の活動において、専門職の方から教わる草木の説明一つひとつが、新たな知識となりました。また、冬の森は静かで、木の実などといったものの観察はできなかったものの、この時期ならではの「霜柱」などを観察することができました。森というのは、四季によって様々な変化を遂げるものです。しかし、私は冬の(おたごは)しか知りません。今後は、一年を通しての自然観察会に参加し、四季折々の女子畑の自然に触れていきたいと思っています。また、自然の中に立ついくつかの鉄塔をたどっていくと、山から湧き出る山水を活用し、水力発電が行われていました。これこそ、自然からの恩恵ではないのでしょうか。私たちの生活に必要不可欠なものを、自然の中から生み出すという工程を間近で見ることができ、改めて自然の偉大さに気付かされました。今日、子どもたちが自然と触れ合う機会が減少していると言われていました。都会から一足伸ばせば、こんなに自然に溢れている「女子畑」があること、そしてそのような自然からの恩恵であるエネルギーと私たちの豊かな生活の関係を考える様々なプログラムが企画されていることを多くの方に知ってもらい、そして活用してもらおうと、これからは必要だと感じました。



2004年度の環境月間における取り組み

環境基本法①に定められた6月5日の「環境の日①」を中心とする6月の1か月間は、「環境月間」として全国一斉に各種環境関連行事が展開されています。

当社においても、環境保全活動の必要性・重要性を再認識する期間と位置付け、その取り組みの一環として、地域における植樹活動や清掃活動等の社会奉仕活動を積極的に実施しています。

◇植樹活動

24の事業所で5,780本の苗木・緑化樹を植樹しました。

- 鹿児島支店鹿屋電力所では、肝属郡高山町の新樹学園の入園者の皆さま7人と一緒に、ヒラドツツジなど215本を植樹しました。



信号機の清掃(五島営業所)



鳥の巣箱設置(飯塚営業所)



ふれあい農園(新大分発電所)

◇奉仕活動

地域の清掃活動や鳥の巣箱の設置、発電所内に設けたふれあい農園の開放などを行いました。

- 事業所周辺の道路や公園、海岸などの清掃を90の事業所で実施し、地元自治体等主催の清掃活動にも38の事業所が参加しました。長崎支店五島営業所では、グループ会社の(株)九電工と合同で、福江市内の信号機の清掃を実施しました。
- 北九州支店飯塚営業所では、飯塚市の鯉田小学校の児童10人と一緒に、鳥の巣箱10個を校庭内の樹木へ設置しました。
- 5事業所で、ふれあい農園や温室の開放を行いました。大分県の新大分発電所では、大分市の大在保育園の園児45人を招待し、発電所内農園でのサツマイモの植え付けを体験してもらいました。秋には、植え付けたサツマイモの収穫体験も行っています。

用語説明

詳細については用語集を参照ください。

環境基本法

1993年に制定された、環境に関する分野について国の政策の基本的な方向を示した法律。

環境の日

事業者及び国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高めることを目的に、環境基本法において6月5日を環境の日と定めている。この日は国連の「世界環境デー」でもある。

環境NGO

環境保全のために取り組む、政府機関でない非営利の民間組織・団体。

電気自動車

バッテリー(蓄電池)に蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車。

低公害車

国が策定した「低公害車開発普及アクションプラン」の対象となる、「新しい技術の活用等により、著しく環境負荷の低減を実現した」車両のこと。具体的には、天然ガス自動車、電気自動車、ハイブリッド自動車、メタノール自動車、低燃費かつ低排出ガス認定車、燃料電池自動車などがある。

森林管理認証

環境、社会、経済の面から評価し適正に管理されている森林を認証する制度のこと。

カーシェアリング事業への協力

2002年10月から、福岡市や環境NGO①とのコラボレーション事業として、福岡市内において電気自動車①等の低公害車①を利用したカーシェアリング事業に協力しています。(2005年9月までのパイロット事業)

- カーシェアリングとは、個人で車を所有せず、車の管理運用組織の会員となることにより共同で車を利用するシステムで、排ガスの削減や交通渋滞の緩和といった効果が期待されています。九州電力は、車両の導入費用や無人貸出システム開発費用等の提供のほか、車両利用状況の分析やPRにおいて協力・支援を行ってきました。
- 2005年度は、3年間のコラボレーション実績を踏まえ、実施主体のNPO法人とともに事業の評価を行っていきます。

カーシェアリング事業への協力の詳細については、CD⑮



箱崎九大前ステーション(福岡市)の電気自動車

循環型社会形成への協力

パトロール中などに廃棄物の不法投棄を発見した際、自治体へ情報提供を行う「廃棄物の不法投棄対策に関する協定」を、27事業所で、のべ98の地元自治体と締結し実践しています。

また、地域の清掃奉仕活動も実施しています。

循環型社会形成への協力事例については、CD⑯



社用車にもステッカーをはり、不法投棄抑止をPR

TOPICS

No. 8

社有林で「FSC森林管理認証」を取得!(電力会社として全国初)

2005年3月、大分県九重町や湯布院町などに所有する社有林(4,447.66ha)において、適切な森林管理が行われていることを認証するFSC(Forest Stewardship Council: 森林管理協議会)の「森林管理認証①」をわが国の電力会社として初めて取得しました(認証番号 SA-FM/COC-1412)。社有林は九州電力の前身である九州水力電気が水力発電の水源かん養の目的で、原野であった九州の尾根地帯に山林育成を開始したことに始まり、現在では、水源かん養や木材生産のほか二酸化炭素の吸収、生物多様性など、多岐にわたる機能を有するものとなっています。

外部審査の継続受審は、森林管理の信頼性向上並びに社有林が持つ多様な機能や効果の継続的な維持・向上に繋がり、地域社会との共生にも寄与するものと考えています。



審査員に説明を行う九州林産*社員
*九電グループ会社、社有林の管理を担当

用語説明

詳細については用語集を参照ください。

IPP(独立系発電事業者)

発電設備のみを所有し、送電系統を所有していない卸売り発電事業者の総称。

エネルギー管理士

省エネ法に基づき、一定規模以上の工場などにエネルギーの使用量に応じて選任しなければならない。エネルギー管理士の免状の交付を受けている者。

公害防止管理者

「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」に基づいて、一定規模の工場に選任が義務付けられている有資格者。

内部環境監査(員)

環境マネジメントシステムがISO14001規格に適合し、適切に運用、維持されていることを判断するため、定期的に行う監査(それを行う者)。

- ・JICA
- ・天然ガス
- ・CO₂(二酸化炭素)
- ・コンバインドサイクル
- ・JETRO
- ・NEDO
- ・京都メカニズム
- ・CDM(クリーン開発メカニズム)
- ・ESCO
- ・コンプライアンス
- ・公的資格祝金制度
- ・環境マネジメントシステム(EMS)
- ・ISO14001
- ・廃棄物技術管理者
- ・特別管理産業廃棄物管理責任者
- ・地域社会貢献者表彰制度
- ・ボランティア休暇制度

3 国際協力

JICA①等の機関を通じた専門家の派遣、研修生の受け入れや、海外の電気事業者との情報交換、IPP①事業を中心とした海外事業、コンサルティング事業を展開しています。

- 天然ガス①を燃料とした高効率の火力発電所を建設し、CO₂①排出を抑制するなど、環境に配慮しています。
- また、環境保全関連では、従来からCO₂削減に資する技術の移転や諸研究に取り組んでいます。

海外事業展開の状況については、 CD 16

海外IPP事業

プロジェクト名(国名)	発電方式(燃料)	出力(万kW)	営業運転開始
トゥクスバン2号IPP [メキシコ]	ガス・コンバインドサイクル①方式 (天然ガス)	49.5	2001年12月
イリハンIPP [フィリピン]		120.0	2002年6月
フーミー3号IPP [ベトナム]		71.7	2004年3月
トゥクスバン5号IPP [メキシコ]		49.5	2006年9月予定

■コンサルティング事業の主な実績(2004年度)

形態	国・地域	内容	公募(入札)実施者
水力発電	台湾	清水溪小水力発電所建設事業F/S調査	経済産業省
	フィリピン	シコボン水路式水力発電所計画F/S調査	JETRO①
火力発電	インドネシア	ナンヨウアブラギリ油の小規模分散発電システム開発	NEDO①
送電・変電・配電	台湾	台湾電力 変電所建設コンサルティング	台湾電力
	タイ	タイ地方電力公社 変電所建設コンサルティング	タイ地方電力公社
京都メカニズム①	中国	CDM①スキームを利用したESCO①事業	NEDO

4 社員の意識高揚

環境活動に関する研修や情報提供を充実させ、社員一人ひとりの環境意識の高揚を図っています。

研修・講演会・意識調査

環境に関する研修、社内外講師による環境講演会、社員意識調査などを積極的に実施しています。

- 環境部では、事業所の環境業務の管理職・担当者及び新入社員を対象に、コンプライアンス①や廃棄物の適正処理など環境業務全般に係る研修を4回実施し、230人の社員が参加しました。
- 環境に関する社外の研修・講習会に、32事業所で311人の社員が参加しました。
- 環境月間に、社内外講師による社員向け講演会を8事業所で実施し、511人の社員が聴講しました。
- 本店では、元NHK解説委員で放送ジャーナリストの平野次郎氏をお招きして、「日本の中の世界ー地球環境を考えるー」をテーマに講演会を開催し、129人の社員が聴講しました。
- 環境意識の高揚と環境活動のさらなる充実を図るため、社員を対象とした意識調査を2003年度から実施しています。

2005年度の調査概要は  P70 参照



環境担当者研修

環境関連の専門教育

通信教育受講料の補助や公的資格祝金①などの諸制度を設けて、エネルギー管理士①や公害防止管理者①など、社員の環境関連の資格取得を支援しています。

- 各事業所の環境マネジメントシステム①が適切に運用・維持されているかを監査し、その結果や改善すべき課題を各事業所の経営層に報告する内部環境監査員①を養成しています。

2004年度は、ISO14001①認証取得の支援会社であるグループ会社の西日本技術開発(株)から講師を招いて4回の研修を行い、161人を養成しました。

■資格取得者数(2004年度末累計)

(単位:人)

エネルギー管理士	960
公害防止管理者	507
廃棄物技術管理者①	196
特別管理産業廃棄物管理責任者①	152
内部環境監査員	525

社員の社会貢献活動支援

◇地域社会貢献者表彰制度

社員が積極的に地域社会への貢献活動を推進する気運を喚起し、地域社会との触れ合い、貢献に側面的に寄与することを目的として、「地域社会貢献者表彰制度①」を設けています。

- 2004年度は、地域の救命率向上に向けた救命救急法の普及活動や、ソフトボールの指導・審判等を通じたソフトボールの普及、青少年の健全育成活動など、21人の社員が表彰されました。

◇ボランティア休暇制度

社員の社会貢献活動への支援として、ボランティア休暇制度①を設けています。

■ボランティア休暇の取得実績(2004年度)

	社会福祉活動	地域一般活動	地域スポーツ・文化活動	ドナー(骨髄バンク)	合計
人数(人)	116	25	45	1	187
日数(日)	146.5	40.0	74.5	0.5	261.5



情報提供

社内テレビや社内新聞で、環境問題に関する国内外のニュース等の情報を提供するとともに、社内イントラネットの活用を進めています。

◇環境ダイジェスト

毎月、社員へ環境関連情報を提供しています。

- 環境に関する社会の動向、ニュース
- 社内での新たな取り組み
- 社内外の環境関連イベント紹介 など



◇環境部イントラネット

社員の環境意識の高揚や環境活動の実践、環境管理責任者①による管理・指導の支援を目的に、社員とのコミュニケーションツールとして活用しています。

- コンプライアンス関連情報
- 環境活動実践事例集
- EMS 教育関係資料
- 環境 Q&A
- お問い合わせコーナー
- 環境関連用語集 など



環境月間統一テーマ公募

環境月間①(6月)においては、環境保全活動の必要性・重要性を再認識するとともに、より一層の意識高揚を図るため、社内公募・投票により、期間中の「統一テーマ」を選定しています。

■2005年度環境月間統一テーマ

「きつとある 地球のためにできること」

この作品には、「どんなに小さくても、地球のために何かをすれば、決して“ゼロ”ではなく、その“何か”は身近にたくさんある」との思いを込めています。

応募者：北九州支店 総務部 広報グループ 福岡 香世



環境家計簿

社員や家族のライフスタイルを見直し、環境意識を高めるツールとして、「環境家計簿①」の活用を推進しています。

環境家計簿の詳細については、 CD⑱

5 支援・加盟している主な環境団体①

支援団体名	会員区分	加入年度
(社)産業環境管理協会(九州支部)	正会員	1970
宮崎県環境科学協会	加入団体	1974
(財)日本環境協会	正会員	1977
かんた 刈田町環境対策連絡協議会	法人会員	1983
(財)日本緑化センター	賛助会員	1984
(社)産業と環境の会	正会員	1985
オイスカ産業開発協力団	法人会員	1988
(社)日本経済団体連合会 自然保護協議会	通常会員	1992
(社)海と渚環境美化推進機構	正会員	1992
佐賀県快適まちづくり推進実行委員会	法人会員	1993
水文・水資源学会	法人会員	1993
長崎県保健環境連合会	法人賛助会員	1994
熊本県環境保全協議会	法人会員	1995
熊本地域地下水保全活用協議会	監事,賛助会員	1995
ハウステンボス環境研究会	法人賛助会員	1995
日本鳥類保護連盟	法人会員	1996
熊本地区省エネルギー委員会	法人会員	1996
熊本県フロン回収・処理実施協議会	会員	1996
かんた 刈田港美化協議会	法人会員	1997
くじゅう地区管理運営協議会	団体加入	1998
特定非営利活動法人緑のまちづくり交流協会	プロジェクト支援	1998
坊がつる野焼き実行委員会	実行委員会会員	1999
九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)	法人会員	1999
(財)国際生態学センター	賛助会員	2000
(財)くまもと緑の財団	賛助会員	2000
ぶん 豊前市花と緑のまちづくり推進協議会	会員	2000
あぶらぎ 油木ダムを美しくする会	プロジェクト支援	2001
大分県緑化推進センター	会員	2001
グリーン購入ネットワーク	会員	2001
ISO友の会	会員	2001
さんぽう ありあけ NPO21くまもと金峰・有明環境会議	理事	2002
特定非営利活動法人カーシェアリングネットワーク	法人会員	2002
佐賀県環境にやさしい県民運動会議	法人会員	2002
熊本地区省エネルギー委員会	賛助会員	2003
日経BP環境経営フォーラム	一般会員	2003
北九州市建設リサイクル推進協議会	協議会員	2003

用語説明

詳細については用語集を参照ください。

環境管理責任者

九州電力の各事業所が環境アクションプランをもとに環境活動を推進する中で、その責任者として、それぞれ業務系列で進められる環境活動のPDCAの総合的管理を行う者として設置されている。

環境月間

環境省が主催して、6月を環境月間と定めており、環境保全に関する国民の認識と行動を促すため様々な行事が行われている。

環境家計簿

自分の家庭生活が環境にどのような影響を及ぼしているか、日常生活における家庭の環境への収支を記録するもの。

環境団体

地域で環境に関する活動などを積極的に行う組織・団体などをいう。

VOICE No.9 つなげたい、ひとりひとりの“思い”



資料燃料部 資材契約センター 委託契約課 たくはした ゆういち 竹下裕一

森づくり・里山保全団体の中間支援組織として、有志で「ふくおか森づくりネットワーク」として集まり活動しています。各団体の活動を紹介・体験参加ができる場として「里山体験リレー」や楽しく安全な活動の在り方を模索して「森づくり活動グループリーダー講座」、森づくり・里山保全活動の課題と解決に向けてのアイデアを話し合った「ふくおか里山ワークショップ」、「里山写真展」等を行っています。市民、行政、大学、企業などの立場を越えたつながりが生まれています。また、救急法指導員(赤十字)・応急手当普及員(消防)として、まさかの時に備えて、心肺蘇生法(CPR)・自動体外式除細動器(AED)や熱中症をはじめとする救命救急・応急手当を普及する活動に参加させていただいています。その中のひとつ、グリーンヘルパー養成講習(NPO法人緑のまちづくり交流協会)では「野外活動における安全管理と救急法」について、受講者の皆さんと一緒に学ばせていただいています。九州各地の講習等で出会った方々と森林ボランティアや登山道で、思いがけず再会できるのがうれしいです。一人ひとりの“思い”が、“かたち”へと繋がるように、また未来の世代から預かっている今の自然や文化を少しでも受け継いでいけるように、この“思い”の輪が広がっていったらと思います。